瞳を輝かせて Brilliant Eyes

「元気」「根気」「勇気」がくれた自信

第12回全国障害者スポーツ大会ぎふ清流大会に出場

長木（ながき） 久美子（くみこ）さん（三好丘桜）

障がいのある選手が競技を通じて、スポーツの楽しさを体験するとともに、社会参加を促進することを目的に、平成13年から毎年開催されている全国障害者スポーツ大会。今年は、岐阜県で10月12日から3日間の会期で開催されました。今回は、ボウリング競技で愛知県代表選手として出場した長木久美子さんを紹介します。

久美子さんは10年前、高知県で開催された第2回大会でも愛知県代表選手として水泳競技に出場し、25メートル背泳ぎで見事銀メダルを獲得。メダル獲得後も大好きな水泳を続ける久美子さんに、新しいことにもチャレンジして、いろいろなことを経験してほしいと考えていた母・栄里子（えりこ）さん。ちょうどその時にオリンピック競技種目としても採用されているスポーツなどに知的発達障がいのある人たちが練習に取り組んでいるスペシャルオリンピックスという団体があることを三好養護学校時代の友人から聞き、誘われたことをきっかけにその団体に参加することにしました。入団後、サッカーや陸上競技などに挑戦しましたが、久美子さんが一番興味を持った競技がボウリングでした。ニコニコと楽しそうに球を投げる久美子さんを見て、本格的に挑戦することにした栄里子さん。「練習でうまく投げられない時や、成績が伸びずつらそうな姿を見ると、このまま続けていいものか…」と葛藤もありましたが、笑顔で楽しんでいる姿を見ると、やっぱり続けていこうと思いましたね」と振り返ります。春と秋には名古屋市の星ケ丘ボウルで行われる大会に出場し、オフシーズンには家族で練習に励み、持ち前の集中力と運動能力で実力を伸ばしていきました。その結果、4月に行われた愛知県障害者スポーツ大会で好成績を収め、見事、愛知県代表選手に選ばれました。

練習を重ねて迎えた大会当日。いつもとは違う会場の雰囲気や大観衆の前での緊張感からか、ストライクやスペアを決めるなど善戦したもののベストスコアを出すことはできませんでした。しかし、栄里子さんは「結果ではなく、ストライクを決め笑顔で喜ぶ姿を見て、このような経験をさせてやることができて、本当に良かったと思います」とほほ笑みながら話します。

この大会で多くの人と出会い、触れ合ったことでまた世界を広げることができた久美子さん。「これからも、日々前向きに精進して、また現役選手として国体ジャージに袖を通せるように頑張ろうね」とエールを送る栄里子さんに、久美子さんも言葉ではなく「もちろん、頑張ります」と言わんばかりに、マイボールを掲げながら瞳を輝かせます。

▶▶▶プロフィル

ながき・くみこ　昭和57年生まれの30歳。愛知県立三好養護学校を卒業後、打越町にある「しおみの丘」まで毎日自宅から歩いて通い、自動車関係の部品作りをしています。趣味はパズルと水泳。特にパズルは、一度作り始めると2、3時間集中してしまうほど大好きな久美子さん。家の壁には、久美子さんが作った絵画や風景画の力作の数々が飾られています。

▶いつもとは違う競技会場の雰囲気に緊張しながらも、見事ストライクを決め、会心の笑顔で観客の声援に応えます